

ずいそう

## 「仕事」と「癒やし」



有田衣里

## □はじめに

歴代執筆の方々のような文面ではなく申し訳ありませんが、少しおつきあい下さい。

## □仕事

「けんせつこまち」や「トラガール」など、土木建設業界や、今まで女性とはあまり結びつきのない業種での女性の活躍が目立っています。

女性も働きやすい職場環境など取り組みは進んでいますが、これまで男性が主である業種で女性が働くということはなかなか容易ではないと思います。

私も女性現場技術員として工事現場の管理補助業務を日々奔走・迷走？しながら毎日を送っています。

ある日、現場で打合せをし、事務所に帰って報告をした時のことです。

伝えたいことが伝わらずどんどん焦ってきて頭が真っ白になり、的確に答えられませんでした。理解していると思っていただけに、悔しい情けない気持ちでいっぱいでした。

しかし立ち止まっている時間はありません。しっかり！と自分に言い聞かせリベンジ。

緊張しながらもなんとか自分なりの説明をすることができました。もちろんこれで満足はしていませんが、改めて気が引き締まる思いでした。

熟練の人が言うならば、できて当たり前、そんな甘い世界でない！ それも十分承知ですが、マイペースに、いろんなことを経験しながら、少しずつでもパワーアップしていきたいです。

先輩方にいろいろ教わり理解出来た時や、点と点が結びついた時、私の頭の中の豆電球がピカッと光る、その瞬間が仕事の楽しさへと変わっていきます。

また「説明用にどうぞ」とわかりやすい資料を作ってくれる方もいて、本当に嬉しくありがたいと思い、また、やる気にも繋がります。

男性で心配りが細やかな人、女性で体力に自信があり豪快な人等労働環境にはいろいろな「個性」があります。

「自分らしさ」を大切にして、周りの方とコミュニケーションをとりながら、物づくりに携わっていきたいです。

そんな「毎日勉強！」「毎日修行！」と戒めて日々過ごしていますが、さきほどお話しした様に、なかなか思い通りにいかず悩み、心が折れ、忙しい毎日に疲れて元気をなくすこともあります。

それを癒やしてくれる3つの事をご紹介します。

## □息子

まず1つ目は、工業高校土木専攻で勉強中の息子との会話です。息子と車で移動中に橋梁の現場が見えました。そこは以前息子が学校の現場見学で行ったところでした。

息子：「僕、エレベーターで上がらせてもらったけど、怖かった！ 高いところはムリ！」

私：「そうね。いくら慣れていると言っても作業する人は凄いよね～」

息子：「でも、もうこんなに工事が進んでいる！ 早いね」

という会話や、「あれ、何作っているんだろう」とか、杭打ち作業をしているところでは、「すごい機械だね」など話しました。（後で先輩にその機械を「ダウンザホールハンマ」だと教えてもらいました）少しでもその現場のことを知れば気になるし、出来上がっていくのを見ていたら楽しいねと話したことでした。

今年受験生の息子とあれこれ会話をする事は楽しいだけでなく、「よし！ 私ももっと頑張らないと！」と励みになります。

## □ママ友

2つ目。私には息子が2人おり、2人とも小学1年生からサッカーを続けている関係で数年来のママ友がいます。

試合の時はもちろん、それ以外でもたびたび集まって「夜の部」でも大騒ぎします。

遠征に応援に行っては、ご当地おすすめ料理やスイーツ店めぐり。どちらが本当の目的なのか判らない時もあります。



子ども達にも手がかからなくなったので、今年は温泉1泊旅行の計画を立てています。そしてその計画の為にまた集合です。

補足ですが、「高知の女性は酒豪のはちきん！」とよく言われますが、それはあくまで「うわさ」です。

#### □茶道

そして3つ目。(これは最近新たに私の癒やし・リフレッシュに加わりました。)

昨年末、インターネットを見ていたら、茶道についての事柄が目にとまりました。

以前華道は習っていたのですが、茶道には全く興味がありませんでした。しかし不思議とこの時「茶道」という文字に惹かれました。戦国時代にお茶を好み時間を大切にしたり千利休や戦国武将の事を想像すると長い年月親しまれてきた茶道に興味がわきました。茶道はとても奥が深く、一期一会のおもてなしの作法など、私はみるみる茶道の世界に引き込まれました。

(これは習っておくべき！)とすぐに茶道教室に入門しました。

華道とは違い、道具や所作等覚えることがたくさんあり、物覚えがますます悪くなっている私は少々パニック気味になりましたが、先生や他のお弟子さんの流れるような美しい所作を見ると、気持ちが安らぎま



す。(私もこんな風になりたいな〜)と思い、焦らず地道に身につけて行こうと思いました。

まだ始めて間もない茶道ですが、よい点は「美味しいお茶とお菓子が頂ける♪」ことはいまでもありませんが、それに加え、茶室の構え(道具)・掛け軸・花・お菓子にいたるまで、季節に合わせたものを用意し、そこで四季を感じ、バタバタと慌ただしい日常から離れ「静」「癒」「凜」の時間を堪能出来ることです。

私のめざす「お点前」には、まだまだ道のりは長そうですが、楽しみながら上達していきたいと思っています。

最近テレビで知ったのですが「野点(のだて)」と言って堅苦しくないピクニック感覚のお茶の楽しみ方もあるようです。

みなさまも機会がありましたら、是非お茶を一服いかがでしょうか。

一人前の「けんせつこまち」になるためにはこれからも山あり谷ありだと思いますが、「ON」と「OFF」の切り替えをして、充実した毎日を送っていきたいです。